

The 66th Republic Day of India 第66回インド共和国記念日



1950年1月26日、インドでは、共和国憲法が公布されました。それから65年を経た今日でも、この記念日を祝って、さまざまな記念行事がインド各地で行われています。昨年の記念式典には、安倍首相が招待されました。さらに9月には、モディ印首相が来日されたりと、両首相はお互いの国を行き来し、日本とインドの友好を深めています。日本とインドの両国にとって、これまで以上に強力なパートナーシップが図られています。

駐日インド大使

デーパ・ゴパラン・ワドワ
Deepa Gopalan Wadhwa



流通産業を開発し、世界市場における競争力を獲得していただきますよう、お呼びかけいたします。

昨年とは異なり、印日関係にとっても目覚ましい1年となりました。2014年1月26日、安倍首相はニューデリーで行われた共和国記念日パレードに主賓として参加されました。日本の首相が主賓として招待されたのは初めてのことでした。モディ氏は首相就任時に印日関係の重要性を指摘し、日本を南アジア地域外の最初の外遊先にすると言明し、実際に就任後100日以内という早い時期に来日を果たしました。9月1日の首脳会談後に発表された共同宣言により、印日関係を「特別戦略的グローバル・パートナーシップ」へ格上げすることが決定されました。また両首相は、今後5年間で3兆5000億円の日本からインドへの官民投資と資金供給を実現するための画期的な「印日投資推進パートナーシップ」の立ち上げを発表しました。この推進策においては、今後5年間でインドにおける日本企業の数が増加するという目標も掲げられています。

第66回インド共和国記念日を迎えるにあたり、天皇后両陛下、日本政府と親愛なる日本国民の皆様へ御挨拶申し上げます。また、私たちが世俗的民主主義国としてのインドのアイデンティティを祝うこの重要な日に、インド人同胞と日本在住のインド系移民に対しお祝いを申し上げます。

今から65年前の1950年1月26日、インド人は、近代国家インドの礎となる憲法の施行という歴史的な仕事を成し遂げました。すべてのインド人は、高い理想、包摂性、慎重に定義された権利を掲げるこの憲法を誇りに思っています。インド人が憲法に定められた偉大な理想への献身を心新たに今日、私たちは建国の父たちに思いを馳せています。

昨年は近代インド史にとって、記念すべき年でした。2014年、世界は、インドが8億人の有権者、66.38パーセントの投票率という、世界最大規模の民主主義の実践を通じて新政府を選出し、完全に平和な政権交代を遂行するのを見守りました。ナレンドラ・モディ首相率いる新政権は、開発についての選挙公約を実行するため迅速に行動を起こし、開発・インフラ整備プロジェクトの加速化、ガバナンスとビジネス環境の向上、経済成長の再現を目指し、数々の措置を取りました。

世界銀行、国際通貨基金や他の機関は、インド経済は2015年には6-7パーセントの成長率を達成するという予測を立てています。新政権の積極的な政策をもってすれば、この目標値も実現可能であり、また、近い将来におけるより高い成長すら視野に入ります。インドの製造業を再生するというモディ首相の決意は、「メイク・イン・インド」キャンペーンの立ち上げに反映されています。中小企業から大企業まで、すべての日本企業の皆様には、是非この唯一無二の機会をご活用になり、インドで製品を作り、萌芽期にあるインド市場の隅々にアクセスできる

人的交流をさらに活発にし、国民士の相互理解を深めようという両首相の呼びかけに応えるため、在東京インド大使館は、インド文化の粋をお伝えする、1年間にわたるフェスティバルの開催を決定しました。2014年10月27日、シュリパッド・イェッソ・ナイーク文化観光大臣と太田昭宏国土交通大臣のご参加のもと、「日本におけるインド・フェスティバル 2014-15」の公式開始式が執り行われました。私たちは、両国の文明的な繋がりと、文化を守り後世に伝える女性の重要性を象徴するため、弁財天と女神

サラスヴァティをあしらったロゴを採用しました。2014年10月、インド舞踊の20回以上の講演が日本の20都市で行われました。他には、3月17日から5月17日まで東京国立博物館で行われる特別展「コルカタ・インド博物館所蔵 インドの仏教美術の源流」や、文学、映画、インド料理に関するフェスティバルが予定されています。印日両国の友人の皆様には、是非御参加ください。現在日本人観光客の皆様は、オンラインで申請・取得が可能なeビザと、到着時ビザ発行制度をご利用いただけます。広く知られている仏教聖地巡礼ツアーや「黄金の三角形」地帯に加え、年間を通じて涼しい気候が続くダーシリン、マナリ、ムスリー、ウーティニーなどの夏の観光に適した丘陵地帯には、数多くの景勝地があります。

私たちは日本との友情に高い価値を置いています。日本でも2014年12月に総選挙が行われ、安倍晋三首相率いる政府が人々の新たな信任を得て政権を再び握り、経済強化に乗り出しています。両国における強力なリーダーシップを発揮する強い政府の存在は、印日関係の更なる強化にとって幸先が良いと言えます。私たちは、インドと日本の持続的・共存的政治、戦略、経済、文化における関与をより確実にするために、両国をさらに強固な絆で結びたいと望んでいます。2国の国民の間に、互いに対する尊敬、理解、感謝に基づく、より丈夫な架け橋を築くことが、私たちの一番の願いです。

印日間の友情は、2015年にも更に深まると確信しています。先日岸田文雄外務大臣がスミタ・スワラジ外相と第8回戦略対話を行うためにインドを訪問され、今年も素晴らしいスタートとなりました。これからのハイレベルの政治交流・文化交流が活発に行われることが予想されます。私たちは平和、進歩とさらなる繁栄という両国の国民に共通する願いを実現するため、日本政府、企業、産業、国民の皆様と緊密に連携し、共に進んでいくことを楽しみにしております。

森 喜朗
Yoshiro Mori



公益財団法人日印協会
代表理事・会長

森 喜朗
Yoshiro Mori

第66回インド共和国記念日に際し、日印協会を代表し、インド政府並びにインド国民の皆様から心からお慶びを申し上げます。

昨年5月、インドにおいてモディ首相を首班とする新政権が発足し、12月には、日本においても衆議院の総選挙の結果第3次安倍内閣が誕生いたしました。双方とも国会の下院において圧倒的な多数を確保し、強力かつ安定した政権となりました。親日家と知られるモディ首相とインドを重視する安倍首相は、アジアの安全保障について共通の認識をもっているほか、アベノミクスとモディノミクスは経済成長、規制緩和などの面で双子のように似たところがあります。

モディ首相は、南アジア以外では最初の二国

日本は今、大きな転換点に立とうとしています。長く続いたデフレからの脱却が現実のものとなるか否か、実質賃金の向上によって内需主導の景気回復が実現するか否か、そして「為替レートに左右されない強いモノ作り大日本」が定着するか否か、です。

しかし一方で、日本では若年労働力の不足による労働需給ギャップの深刻化が問題となっており、生産拠点の国内回帰を進めていく事が得策であるか、疑問が残ります。

こうした内外情勢の中でこそ注目すべきなのが、「THE MAKE IN INDIA」プロジェクトです(www.makeinindia.com/)。互いの国民感情が長期に亘って良好で、世界第二位の就労人口=消費人口を持ち、実質賃金は中国の1/4に抑えられているインドであれば、日本の製造業が生産拠点を置くメリットを充分に享受する事ができます。

経済面だけに留まらず、政治的にも、軍事的にも、そして文化的にも真のパートナーとなる、戦略的互恵関係を結ぶことができる数少ない貴重な国です。

訪問先として日本を選び、日本重視の姿勢を内外に示しました。8月末から9月初めにかけての滞日中、安倍首相との首脳会談において、これまでの「戦略的グローバル・パートナーシップ」から精神的なつながりをも強調した「特別戦略的グローバル・パートナーシップ」に格上げしました。日印協会も、日印友好議員連盟と共催で、モディ首相歓迎会を盛大に執り行いました。

本年もインドは力強く発展し続けるものと思いますが、わが国においても、政治的安定の下でデフレからの脱却と経済成長、地方の活性化、少子高齢化対策や女性の活用などが進むものと期待されています。日印関係は、このような両国政府の祝福と支援の下で、多方面において画期的な進展を遂げるものと思われま。

日印協会は本年112周年を迎えますが、皆様とともに、アジアひいては世界を担う日本とインドの関係強化のために努力を続ける所存です。

最後に、この機会に、偉大な両国民の幸福と国際社会全般の平和と繁栄を祈念いたします。

在日インド商工協会
理事長

比良 竜虎
Ryuko Hira



「THE MAKE IN INDIA」プロジェクトを理解して頂くべく、本年11月~12月に、日本の主要20都市、5000社の製造業の皆様を対象に、セミナーを開催する予定でおります。このセミナーを通じて、インド進出に必要な情報を得、それが互いの利益と成功に繋がる事を実感して頂く契機となれば幸いです。

インドに生まれ、日本に帰化した私にとって、インドと日本の製造業の共同企業活動が発展し、こうした良好な経済関係が、両国の信頼と友情を深め、血の通った高貴な日印同盟へと花開き、ひいては、アジア地域における日本に対する信頼と善意を深めていくことこそが至上の喜びであり、その実現を願ってやみません。最後に、共和国記念日を心よりお祝い申し上げます。



Nobody covers India like Air India

成田・関西よりデリーへ
エア・インディアのドリームライナーを
お楽しみください

いい旅、いい宿、出会いの始まり

HMI
ホテルグループ

全国に7つのブランドで展開する7つのおもてなし
ホテルマネジメントインターナショナル株式会社

www.hmi-hotel.co.jp

公益財団法人 在日インド商工協会
THE INDIAN COMMERCE AND
INDUSTRY ASSOCIATION JAPAN
www.icij.jp

インド料理レストラン
ムンバイ グループ
www.mumbai.co.jp

MITSUI & CO.

三井物産株式会社 www.mitsui.com/jp

Find what you seek
Incredible India 驚きの国 インド

インド政府観光局
Indiatourism, Tokyo

〒104-0061 東京都中央区銀座1-8-17 伊勢ビル 7/8F TEL:03-3561-0651/52 FAX:03-3561-0655
E-mail: indtour@smile.ocn.ne.jp Website: http://www.incredibleindia.org

Tourist Visa On Arrival
Enabled by ETA

株式会社ジュピターインターナショナル
コーポレーション
http://www.jupiter-int.co.jp/

総合商社の、つぎへ

三菱商事
www.mitsubishicorp.com